

全地連

「技術フォーラム2000」神戸大会報告

2000.9.21~9.23

技術委員会

あの壊滅的な被害のあった阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)から、早5年半が過ぎようとしており、神戸の街は外観的には、大地震の傷も癒えたようであった。

第11回目を迎えて今世紀最後となる全地連「技術フォーラム2000」は、2000年9月21日(木)~23(土)、ここ兵庫県神戸市ポートアイランドにある神戸国際会議場で開催された。

大会は、第1日目に全地連技術委員会大矢委員長の開会の挨拶の後、特別講演会により口火が切られた。その後、熱のこもったオープン講演会、技術発表会が行われ、懇親会でさらなる盛り上がりを見せた。二日目は全地連講演会、関西協会特別企画などが行われ、最終日はオプション行事として現場見学会(震災・復興コース)が行われて全行程を無事終了することができた。



大会会場(神戸国際会議場-中央-)

●特別講演会

以下に示す2編の講演をいただいた。

①「地震防災と活断層」

土岐 憲三(京都大学教授)

②「阪神・淡路大震災で発生した

傾斜地災害」

沖村 孝(神戸大学教授)

災害を主要テーマに、阪神・淡路大震災で発生した災害の特徴や、これからの防災の考え方などについての講演内容で、たいへん興味深かった。

この地震で得た教訓として内陸活断層を

軽視していたこと、および「防災から減災へ/防災空間の創造/ともに考える防災」の必要性・重要性を主張されていた。



特別講演会(神戸大学 沖村教授)

●オープン講演会

全地連からは「ボーリングに関するアイデア募集の報告」、地質調査所からは「地質図に用いる用語等の表示に関する基準案」の発表があった。

また、神戸市からはデータベース「神戸 JIBANKUN」の紹介が、そして、兵庫県立人と自然の博物館からは「古地震を掘り出す-野島断層の剥ぎ取り断面-」の発表があり、会場に見事な剥ぎ取り断面が展示してあった。



オープン講演会風景



野島断層の剥ぎ取り断面

●パネルディスカッション

第1日目は地質調査業協同組合連絡協議会により「調査・試験分野における情報技術と未来～建設CALISの向こうに見えるもの～」という地質調査業の将来にかかわるテーマについて、入り口で配られた缶ビールを片手に、熱心な討論が繰り広げられた。

第2日目は関西協会特別企画として「地質汚染と環境修復～地質コンサルタントが果たす役割～」という比較的新しいテーマで、地質環境汚染の現状や汚染調査の手法について、模索的な討論がなされた。

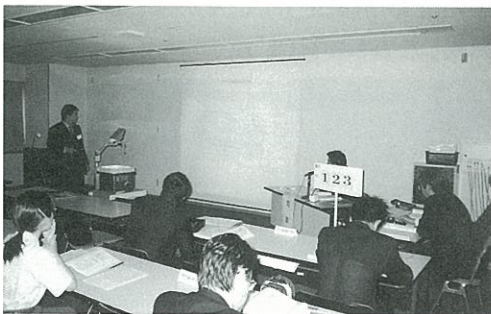


パネルディスカッション風景

●技術発表会

一般セッション133編、オペレーターセッション10編と昨年に比べてやや数は減ったものの、5会場に分かれて熱心な発表が行われた。

発表内容は一般セッションは地震防災、メンテナンス、物理探査、室内試験、原位置試験／動態観測、トンネル、斜面、地すべり、地域地盤、環境、地下水、サンプリング、サウンディングに区分され、私は年々、発表のレベルも高くなりつつある印象をもった。



技術発表会風景

●技術者交流懇親会

懇親会は会場に隣接するポートピアホテルで行われた。関西地質調査業協会の舟木理事長より「今回のフォーラムは大地震を総括する意味が込められて企画されており、実りあるフォーラムとなって21世紀へのステップとなるこ

とを祈念したい」という主旨の挨拶があり、郷土色豊かな御馳走を前に、盛大に行われた。特に神戸牛は美味しく、京都伏見・灘の銘酒との相性も良かった。次回開催される新潟での再開を誓い、散会となった。



懇親会風景

●展示会

関西地質調査業協会からは震災直後と現在の復興状況を比較した巨大な空中写真パネルの展示と、同滋賀県支部(しが地質調査会)がまとめた「滋賀県地盤とその周辺環境」についての研究報告があった。

滋賀県地盤図は、琵琶湖周辺に発達する平野について、①表層の地盤種別とその分布、②各種現位置試験データ、③地下水の分布、などを明らかにすることを目指して作成されたものである。



展示会風景
(関西地質調査業協会一空中写真パネル)



展示会風景
(関西地質調査業協会一滋賀県地盤図一)

以上
(文責:石川)